



こうべ子どもにこにこ会ニュース

巻頭言

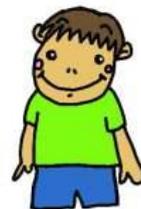
神戸市東灘区社会福祉協議会 東灘区ボランティアセンター
ボランティアコーディネーター 長友 由美

社会福祉協議会は、みんなが安心して笑顔で暮らすことができる福祉のまちづくりを目指している団体です。ボランティアセンターでは現在、お年寄りから障がい者、子どもたちにかかわるボランティアのニーズをかかえています。その中には滞日外国人からのニーズも増えつつあります。日本で暮らし始めた夫婦のもとに生まれる子どももいれば、家族で移住してくるケースもあり、それぞれ国籍も異なることから支援の手立ても個別の対応が求められます。ニーズは子どもたちを通じて入ってくることが多く、「学校からのお便りや連絡の内容が分からない」、「宿題で漢字や音読が出て、合っているのかどうかを見てあげることができない」など、親が対応に苦慮している様子が見えとれ、それを誰にどう伝えたらよいのかが分からず、学校とのコミュニケーションの難しさを感じているようです。もちろん、学校の一斉授業の中では十分な理解を求めることは難しく、高学年になるにつれ「授業が分からない。面白くない」といった子どもたちの思いに触れることもあります。また親からは「勉強は学校ですもの。なぜ家で勉強しなくちゃならないの?」という質問を受けることがあり、文化や考え方の違いによっては、宿題という概念がないことに気付かされます。

そんななか、子どもたちの日本語学習支援や教科学習支援について、いつも相談に乗っていただいているのが「こうべ子どもにこにこ会」です。子どもたちの日本語の理解度を見極め、どのようなサポートが有効かをアドバイスしていただき、現在、ボランティアセンターで呼びかけた学生ボランティアの協力を得て、個別の子どもたちの宿題サポートや日本語学習支援を進めています。

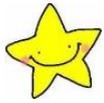
子どもたちを通じて入ってきたニーズをきっかけに、少しずつ思いを聞き取る事で、「健康診断に行きたいけどどうやって手続したらいいのか?」、「小さな子どもと一緒に遊べる場所は?」、「ゴミの分別って?」、「少し遠いところへ買い物に行きたいけど、日本語が分からない(読めない、話せない)から怖い」など、潜在的な困りごとが見えてきました。じゃあ、どんなサポートがあれば、それらの困りごとを解決することができるだろうか…を一緒に考えるのがコーディネーターの役割です。宗教上の理由から「給食の食材は何が入っている?」を心配する母親の思いを受け止め、伝える事ができる人が近くにいてくれたら…。私たちにとっては、大したことはない事柄も滞日外国人にとっては分からない事ばかりで、そのちょっとした事をサポートしてくれる人がご近所にいてくれたら、とても心強くと感じてもらえるのではないかと思います。言葉という大きな壁がある中で【支援したい気持ち】が【無理強い(おせっかい)】になっていないか、どこまでのサポートが必要なのか見極められず、揺れ動く事はありますが、コーディネーターが丁寧に聞き取り、どのような手立てが考えられるかを伝えることで、少しずつでも日本での生活への不安が解消できたら嬉しいことです。

子どもたちを通じた滞日外国人支援は、今後も継続して取り組んでいく必要性があり、ボランティアの育成や地域情報の共有など、「こうべ子どもにこにこ会」と連携しながら、地域に住むすべての人たちが暮らしやすいまちづくりを目指したいですね。



活動レポート (1)

放課後日本語・教科学習支援教室の取り組み ～読み聞かせ～



こうべ子どもにこにこ会では読書活動にも力を入れています。今回は土曜日の放課後日本語・教科学習支援教室で取り組みが始まった読み聞かせ活動「きょうのおはなし なあに？」について、取り組みの中心メンバーである土曜日ボランティア岡田さんの声をお届けします。

読み聞かせ「きょうのおはなし なあに？」に寄せて

4時。部屋の片隅に集まり、ゆったりと腰を下ろし、読み手を見つめる子どもたち。
ひとつの世界を、ともに見つめ楽しむ時間が始まる。
ページをめくるたび、作者が選び抜いた言葉、生きた言葉が、子どもたちの心の中に入っていく。
目を輝かせ、耳を傾ける子どもたち。
時に自分の思いをつぶやきながら。
その小さな空間が、わくわくどきどきに包まれる。



私たちは今、このわくわくどきどきする時間を大切にしたいと思っています。
いつの日か、一人ひとりの子どもたちが、何度も繰り返し読みたくなる本に、
いつも側に置いておきたいお気に入りの本に、出会えるその日のために。
その日から、子どもたちの読書の世界は、限りなく広がるはずです。

本に親しみ、読むほどに、語彙力、文章理解力、思考力、表現力など、学力向上に欠かせない様々な力が養われていくことはよく知られています。その力は、学力だけに留まらないのは言うまでもありません。

毎週土曜、4時に始まる「きょうのおはなし なあに？」の時間が、子どもたちの未来を開く小さなひとつのきっかけになれば、それは私たちにとって、この上ない喜びです。
(土曜日ボランティア 岡田育子)



にこにこパーティー & 保護者会(12月27日(土)@深江会館)

にこにこパーティーに先立って、数年ぶりに保護者会を実施しました。

まずは、運営委員長の酒井から、にこにこ会の事務局の運営体制の交代とにこにこ会全体の活動についてご報告したうえで、共ににこにこ会の活動を支えていただくようお願いしました。そして、家庭学習や母語、読書の大切さについて、スライドを使ってお話ししました。また、運営委員の乾さんから高校進学に向けて重要なポイントをご説明いただきました。

続いて、各担当ボランティアと保護者との懇談を行い、各家庭の進路についての考え方や家庭学習の状況、学校との関係等で困っていること、にこにこ会での子どもの様子などを話し合いました。

参加して下さった保護者の中からは、こういう機会がなければ情報も乏しく自分ではわからないことなので良かったとの声も聞かれ、にこにこ会としても普段ゆっくり話す機会のない保護者から家庭での様子や進路についての考えを聞くことができ、いい機会となりました。



📖 2014年度下半期 イベント報告

多文化フェスティバル深江ににこにこキッズカフェを出店！！



2014年度も多文化フェスティバル深江が開催されました。その中でこうべ子どもにこにこ会は4回目となるキッズカフェを出店、17名の子どもたちがキッズ店員として大活躍しました。

当日ご来場いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

2014年11月30日、多文化フェスティバル深江にキッズカフェを出店しました。

メニューは、前日に子どもたちが作ったお菓子や保護者の方が作ってくださったお菓子、その他さまざまな国の食べ物や飲み物です。カフェに飾るものを持ってきてくれた子や、子どもたちで役割分担を考えるなど、自分たちでキッズカフェを成功させようと工夫していました。

カフェ店員に扮した子どもたちの仕事は、お客さんをテーブルに案内し、注文を聞き、注文の品をテーブルまで運ぶことです。子どもたちは積極的に働いており、お客さんが来店するとすぐにテーブルに案内していました。高学年の子どもたちが低学年のフォローに回る場面も見られ、みんなで協力して働いていました。

(土曜日ボランティア 亀田奈緒子)

～当日のメニュー～

にんじんケーキ（ブラジル） マサモラモラダ（ペルー）
ボールツォグ（モンゴル） ブリガデイロ（ブラジル）
アルファホール（ペルー） シャーチーマ（中国）
オートミールチョコチップクッキー 白玉おしるこ
ボーイバワン（フィリピンのスナック菓子）等



保護者会のあとは、毎年恒例の“にこにこパーティー”を開催しました。

にこにこ会の全教室の子どもたち、保護者や兄弟、OBやOG生、ボランティア、講師、スタッフが一緒に楽しむイベントなので、実はにこにこ会の年間行事の中で最も多くの方が参加する機会となっております。

普段、あまり交流を持つ機会がない子ども同士でも食事やゲームを通して仲良くなり、またボランティアや講師など大人も、子どもたちと一緒に楽しく遊ぶ良い機会となります。

イベントの企画、進行は主に土曜日ボランティアで協力して行いました。

大変な準備作業でしたが、子どもたちが楽しむ様子を見ていると、そんな苦労も飛んでしまいます。

イベントの最後には『一年間よく頑張りました！来年も頑張らしましょう！』という気持ちで、各曜日のボランティアや校内日本語教室の先生から子どもたちへメッセージを渡しました。



活動レポート (2)



2014年度 第2回こうべ子どもにこにこ会ボランティア研修会
(公財)兵庫県国際交流協会 外国人児童生徒への日本語・学習支援アドバイザー派遣)

「子どもとの向き合い方 読書活動の取り組みを通して」

2014年10月30日(木)15時~18時
本庄地域福祉センター

講師・ファシリテーター: 福井 武司 先生

(本庄小学校校内日本語教室講師 / (公財)兵庫県国際交流協会登録講師)

日本語教師としての豊富な経験に加え、子どもへの日本語・教科学習指導や、『勉強に役に立つ日本語』教材の執筆にも関わってきた講師と、現場で子どもたちを支援するボランティアの皆さんが抱える不安や疑問を共有しながら、子どもとの向き合い方を考えました。また、読書活動の取り組みについて分かり易くお話しいただき、“できる”支援方法を参加者にも共に考えていく機会となるように実施しました。



参加者の声

私が研修会に参加したのは、ボランティアを始めて2か月経ったころでした。小学生の女の子と一緒に勉強していましたが、毎回手探りの状態で、学校の宿題を終わらせることで精いっぱい、時には彼女とうまくいかず、途方にくれることもありました。

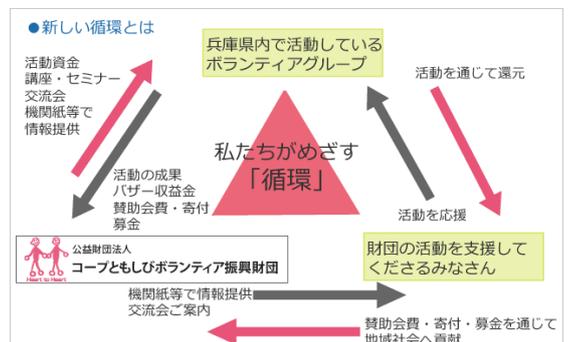
この研修会で、日本語教室の先生から、日本語の力を高めるために読書の大切さと「再話」の方法を教わりました。これにより、私はこの会での学習の軸を得られたように思います。また、子どものやる気を引き出す具体的な例や、自分の考えに固執せず、柔軟に、さまざまな方法を模索すること、子ども自身の成長を待つことなど、啓蒙されることが多々あり、実際現場で教えておられる先生方のお話は大変参考になりました。同時に、グループワークを通して、他のボランティアと共通の問題意識を抱えていること、子どもたちが直面している問題についても知ることができ、たいへん有意義な研修でした。

(木曜日ボランティア 山岡あかね)

☆にこにこ会は公益財団法人コープともしびボランティア振興財団のボランティア活動助成をいただいて、活動しています。

(以下コープともしびボランティア振興財団 HP より抜粋)

コープともしびボランティア振興財団が、母体となった「ともしび拠金」は、福祉ボランティア活動をする人たちの活動資金であり、なおかつ、その資金を絶やさないうよう、ボランティア自身の寄付などで、常に資金を補填していくというしくみをつくり上げていました。財団法人となってからも、この理念は継承され、現在にいたるまで、ボランティアのみなさんからも、毎年「寄付」「賛助会費」の形で、財団への支援をいただいています。それと同時に人の力、知恵などのエネルギー、もの、設備、技術、技能、場所などのボランティア資源が大きく回転する「活動の循環」をめざします。



☀ スペイン語母語教室だより ☀

～アルゼンチンからの研修員がお手伝いに来てくださいました～

アルゼンチンから(公財)兵庫県国際交流協会の研修員として来日していたルクレシアさんが研修の一環として、2014年10月～12月の間、スペイン語母語教室のお手伝いに来てくださいました。

ルクレシアさんからCDや絵本もプレゼントして頂き、そのCDや絵本を勉強道具として使わせていただいています。

母語教室での活動を終えたルクレシアさんから、手記を寄せていただきました。

12月16日は、私のにこにこ会最後のクラスでした。

クリスマス会は、とても賑やかで素敵でしたが、これで最後だとおもったら寂しくなりました。約3ヶ月にこにこ会に参加することができて、とても楽しかったです。この経験は楽しい思い出として、心に刻み込まれました。

クラスに参加させていただき感謝しています。子どもたちに絵本を読んだり、私がアルゼンチンで編集した子どもの番組「Pakapaka」を見せ、それを理解できた子どもたちに質問したり、また、スペイン語が分かる子どもたちは、あまり理解できなかったお友達に日本語で説明しました。ほかには、絵本の結末を変えたりして、遊びながら勉強しました。

ハロウィンやクリスマスのような特別な日には子どもたちはスペイン語で書いたクリスマスカードを作ったり、いろんな工作をして楽しんでいました。このようにして、母語の練習をしていました。子どもたちは遊びながら勉強をして盛り上がります。これは教育的にとってもよい方法だと思います。



自分たちのルーツを保つのはとても大事なことです。ですから、スペイン語圏の子どもたちにこのような場所を提供するのは大事です。

にこにこ会で育った子どもたちは将来の日本といろいろな国の架け橋になるでしょう。自分たちの文化を尊重するのはとても大事なことです。

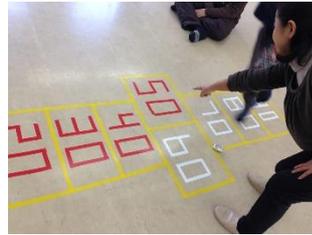
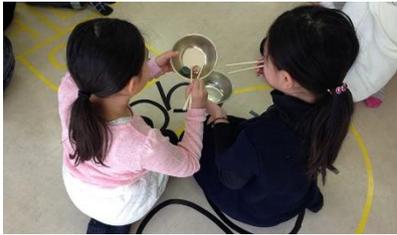


活動内容を随時更新しています。ぜひご覧ください！！

こうべ子どもにこにこ会 FB から (<https://www.facebook.com/kobe.nikoniko>)

○節分イベント (2015年1月31日)

今日は、本庄児童館との交流イベント『節分あそび』でした！豆まきにちなんだ、豆つかみ（豆だけでなく、おはじきやビー玉なども）ゲームでは、みんなお箸使いに苦戦しながらも頑張りました！にこにこ会からの出し物として、日本のケンパととってもよく似た、南米の遊びを紹介しました。



○ひなまつりイベント (2015年2月27日)

本庄児童館との交流イベント「ひなまつり」について、こうべ子どもにこにこ会FBよりレポートします。



ひなまつりイベント始まりま〜す



ひなまつりに関するクイズ！



自分たちの雛人形を折り紙で作ってます。



遥か昔の日本で、子どもを悪い事から守りたいという親の想いから始まった習慣が、形を変えて今のひなまつりになっています。

文化・習慣の意味を改めて考えてみることは、とても大事なことです。



校内日本語教室ニュース



本庄小学校・東灘小学校で

校内日本語教室学習発表会を開催!!

日本語教室での1年間の学習成果を発表する学習発表会を本庄・東灘の両小学校で行いました。

子どもたちは2学期から取り組んできた読書活動の成果や、担当の先生と学んできたそれぞれの課題などについて、発表を行いました。さらに高学年は司会にもチャレンジし、会の進行を担当しました。ちょっと緊張したけれど、それぞれが「頑張った!できた!」と自信をつけた発表会になりました。当日は、いつも教室で一緒に勉強している仲間やにこせん(日本語教室の先生)だけでなく、学校の先生方や多文化共生サポーター、保護者の方も忙しい合間を縫って、来てくださりました。

☆本庄小学校 2015年2月24日(火) 2・3限



読書活動で読んだ本の紹介や作文、漢字の成り立ち、「主語・述語」、調べたことをクイズ形式で発表するなど、それぞれ工夫を凝らした発表でした。先生方やサポーターの先生方にも褒めていただき、みんな笑顔でした。

↓両校とも取り組んできた読書活動。

1冊読むごとに1マスずつ色を塗ってきたグラフ。

みんな半年でたくさん読みました!

☆東灘小学校 2015年2月26日(木) 2・3限



こちらも読書活動で読んだ本の紹介(ランキング形式の紹介もありました)や母語クイズ、ことばの仲間わけの発表など、バラエティーに富んだ発表でした。教頭先生をはじめ、見学にいらした先生方からもあたたかいコメントをいただきました。



子どもたちの感想

今日はちょっとメモを見たけれど、次はメモを見ないでほしいです。みんなにも(何も見ないで)やってもらいたいです。

クイズをみんなに答えられたのが悔しかったです。次はもっと難しい問題にします。



★ 掲示板



● 会員になって私たちの活動を
支えてください。 ●

*正会員【年会費 5000円】 個人
総会での議決権がある会員です。

*サポーター会員【年会費 1口1000円】
個人1口以上・法人10口以上
経済的な支援を頂く賛助会員です。

※寄付も大歓迎です♪

郵便振替 00900-4-251298
こうべ子どもにこにこ会
(同封の振込用紙をご利用ください)

★会員の皆さま、ご寄付くださった皆さま、ご支援ありがとうございます！！

皆さまのご支援により、にこにこ会の活動は成り立っています。

今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお、備品、絵本等も有志の皆さんからいただいています。厚く御礼申し上げます。

＜正会員・サポーター会員の皆様＞（順不同・敬称略）

長嶋昭親 佐野末夫 延原臣二 北村広美 大岡栄美 乾美紀 田中香織 酒井滋子 青木由美
柴田くみ子 武田文 橘直人 田中康夫 辻本久夫 中島孝幸 二階堂裕子 松田陽子 横山文夫

★2014年度に助成・ご協力いただいた団体 ありがとうございます！！

赤い羽根共同募金助成、「生駒温子」児童福祉事業助成、住友ゴム CSR 基金、全労災、ニッセイ財団、(公財)兵庫
県国際交流協会、ひょうごボランティア基金、兵遊協・はあ〜とふるふあんど、フードバンク関西、FREE HELP

● ★ 日本語・教科支援ボランティア募集 ●

放課後教室のボランティアが大変不足しています！

それぞれの子どもの学習能力やニーズに対応し、主に日本語（国語）・数学（算数）・
英語の学習を1対1でサポートしています。原則として日本語でサポートを行います
ので、外国語能力・経験等は不問です。やる気のある方歓迎です。

☆活動時間：木・土 16:00～18:00 ☆活動場所：本庄地域福祉センター

※ボランティア オリエンテーション（要予約）に参加してみませんか？
オリエンテーション担当 松下 までお気軽にお問い合わせください。

問合せ先：078-453-7440

● Email : kobekodomo_nikonikokai@yahoo.co.jp ●



こうべ子どもにこにこ会

〒658-0022 神戸市東灘区深江南町4-12-20-201

TEL・FAX 078-453-7440

Email kobekodomo_nikonikokai@yahoo.co.jp

URL <http://nikoniko.qee.jp/> (☞「こうべ子どもにこにこ会」で検索！)

